

第 35 回稲積山登山会

令和 3 年秋の四極会大分支部登山会は、豊後大野市三重町の稲積山で実施された。

日時：令和 3 年 11 月 20 日

集合場所：稲積山鍾乳洞駐車場

今回は、四極会会員 14 名と霊山登山会 13 名の合同登山となった。

整備された登山道

稲積山は豊後大野市の南部に位置する。1960 年頃までは牛の放牧に使われ、地元住民が野焼きするなど環境保全に努めていたが、過疎、高齢化などに伴い野焼きは中断、草木が伸び、荒れていたという。子供たちに自然の楽しさを教える NPO 法人大分自然塾の首藤理事長（日本山岳会東九州支部会員、元大分県山岳連盟会長）と塾のメンバーや地元住民、県山岳連盟の会員約 20 名が「身近に登ることができる山として親しみ、山頂からの絶景を楽しんで欲しい」と 2020 年 9 月から登山道の整備に着手し、急坂などにはロープを張り、目印に赤色のテープを取り付けた（8 月 10 日大分合同新聞掲載記事より）。本日の登山会に地元出身の首藤理事長自らがメンバーの一人と一緒に同行ガイド役を買ってくれた。



急斜面を登って素晴らしい眺望

登山口は稲積水中鍾乳洞の敷地内にある。8 時 45 分出発。杉坂を抜け、今が見ごろの紅葉に迎えられ、石灰石の巨石が目立つ急斜面を登る。途中、群生の南天の実の赤色が目を引く。急登が続くが数か所にロープがあり助かる。11 時 5 分山頂着。標高 589m の山頂は石灰石の重なる台地で、木々も伐採されて眺望が開けていた。



山頂からの眺めは実に素晴らしい。傾山、天神原、木内山、桑原、新百姓、本谷、祖母山、くじゅう連山、由布岳、鶴見岳等「大分 100 山」の山々や宮崎県の大崩山、五葉岳も遠望できる。次回改定時には大分 100 山入りを是非とも期待したい。

下山に苦勞

昼食後 11 時 55 分に下山開始。枯れ落ち葉の急坂は滑りやすく、皆、散々苦勞しながら 13 時 30 分「奥が迫」に到着。首藤理事長の生家脇を通り、奥豊後の静かな山里散策を楽しみながら 14 時、鍾乳洞の駐車場に到着、解散となる。

数名の会員は鍾乳洞見学も楽しんだ。

大学 14 回 塩月靖浩

